

川柳

意に沿わぬ戦地の兵に冬来たる^{へい}

藤井 節子

ミサイクルが空を横切る平和な国

浅村 勉

食べすぎをかくしきれない高血糖

藤井 絹枝

こうべたれ台風後の稲穂かな

山口 美智子

分配金再投資して消えてゆく

重宗 隆治

熱中症コロナにかかり夏がゆく

蓑島 啓子

俳句

新米の香りや鼻の膨らみて

貞弘 和子

稲妻や闇見る犬の目に走る

峯岡 明子

来し方を笑ひに替へて良夜りようやかな

林 保江

秋の日をむさぼ貪りて干すすす濯ぎ物

三戸 志津江

基地前に新交番やいわしぐも鰯雲

金内 憲一

秋澄すむや微かすかに揺るる絵馬の音

阿部 明美

短歌

うまそうに食べる仕草はママと同じそれを見たくてコロツケ作る

賤間 由美子

ウクライナの攻撃さるるを映されて射し入る夕日に目を逸らしたり

江川 詳子

秋風ひぐらしに 蝸ひぐらしの声消えゆけば暮れゆく夕陽に赤とんぼ舞ふ

末永 敦子

谷川さんりょうに落ちる山稜さんりょう色づきて濃いくれない紅くれないの輝くれないきてある

原田 みすず

目覚しのスイッチ止めてしばらくは起床ためらう肌寒き朝

山口 正子

地蔵様いつもニツコリ歩道わき赤ベコまとい学童見つめ

森坂 達夫

自由律俳句

脱皮したような静寂に坐る

権代 祥一

指文字 その先に広がる友達の輪

岡部 雅江

目線をあわせて話によりそう

西岡 悦子

あの日の涙が今を生きている

松下 満江

台風一過 山がいわし雲背負う

原田 智美

山の端から今日産まれた月が昇る

池田 幸